



題字 井口 文章 再刊 第405号 印刷・発行 錦城高等学校新聞委員会 編集室 2023

みんなでつくる 錦城高校新聞

一面…合唱祭直前特集! 新しく導入された電子黒板を紹介 二面…コロナ前の合唱祭について特集 冬の小平を陸上部員が力走

仲間と最高の合唱を

3年ぶりに合唱祭開催

2月20日(月)に、ルネ小平にて合唱祭が行われる。3年ぶりの開催となった合唱祭。開催に向け、努力を重ねる生徒を取材した。感染対策を心掛け、各クラスの合唱を楽しもう。

感染対策の再確認を

社会的にコロナ対策の緩和が始まっている中で今年の合唱祭は開催される。保健室の水田みゆき先生は「コロナ禍を3年経験した中でいとも言われている感染対策を意識してほしいです」と話す。また「3年ぶりの合唱祭なので今一度、感染対策を徹底して思いっきり楽しんでほしいです」と呼び掛けた。

校長は語る

3年ぶりに開催される合唱祭について阿部一郎校長先生に話を聞いた。



パートごとに音程を確認する

最後に阿部先生は「本番までしっかり練習して、学年最後の行事を楽しんで欲しいです。やって良かったと思えるような合唱祭になるように全力で取り組んでください」と錦城生に呼びかけた。



合唱祭が楽しみだと話す校長先生

実行委員長の想い

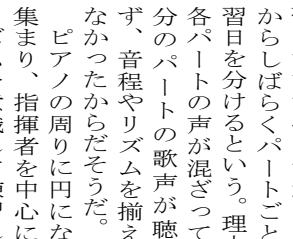
3年ぶりの合唱祭を迎えるにあたり実行委員長の小田倉朱里さん(2F)にお話を聞いた。

本番に向けて練習を重ねる

1年E組は「ひまわりの約束」を披露する。この日の練習では、ソプラノとアルトが各パートの音程とリズムの確認を行っている。前日までは毎日すべてのパートが教室で練習していたのだが、この日からしばらくパートごとに練習日を分けるという。理由は、各パートの音が混ざって、自分のパートの音が聴こえなくなってしまうからだ。

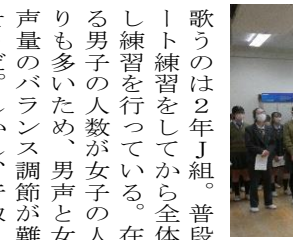
全クラス電子黒板設置

12月12日(月)、各教室に電子黒板が業者から学校へ引き渡されすべての作業が完了した。その経緯について山田功司先生にお話を聞いた。



教室の一画に設置された

山田先生がこのことについて「はじめはテレビを見て、テレビとパソコンを併用して画像を映すだけと考えていたけれど、画像に書きこめる電子黒板が設置されるとは思いもよらなかった」と話した。



実行委員主体に練習を進める様子

山田先生は「色んな意見があるとは思いますが、電子黒板がある方が多くの利点があるのは確かです」と話す。しかし、電子黒板の導入には、コストやメンテナンスなどの課題も存在する。山田先生は「色んな意見があるとは思いますが、電子黒板がある方が多くの利点があるのは確かです」と話す。

各クラスの発表順が決定

1D	RAIN	2B	3月9日
1I	カナタハルカ	2H	僕のこと
1G	証	2L	ハナミズキ
1B	YELL	2G	愛にできることはまだあるかい
1J	ザザンカ	2I	スパークル
1K	なんでもないや	2K	COSMOS
1A	カイト	2M	宿命
1H	Laughter	2E	虹
1L	愛をこめて花束を	2C	正解
1F	心の瞳	2D	奏
1C	白日	2J	水平線
1E	ひまわりの約束	2F	銀河鉄道999
		2A	あなたへ

※歌唱順に並んでいます



公約を達成できて嬉しいと話す

SDGsを意識の中に 1月30日(月)から2月4日(土)まで職員室前で使用済みカイロの回収が行われた。今回の取り組みについて生徒の感想を聞いた。

徒会副会長の山田拓仁さん(1E)は「SDGsの取り組みを推進することが目標です」と話す。この活動は山田さんが中学校で生徒会役員として活動していた時に行っていた活動の一つだそう。生徒会選挙の際に掲げた公約の一つでもある。

「お年寄りには電車やバスの席を譲りましょう」という公約を達成できて嬉しいと話す。山田さんはカイロの回収量について30kgを目安にして、実際に自分が譲らされたことのある言葉だと思える。私がこの話を初めて聞いたのは小学校低学年の時。当時の私は、お年寄りは私たちがより体が弱かったり、不便があったりするから席を譲らなくてはならないのだと思った。しかし、「お年寄りは私たちの生活を築いてくれた先輩だから、それに感謝して席を譲るのです」と浅田次郎のエッセイ「絶対幸福主義」には書いてある。しかし、戦後に儒教的な教えが否定されるようになると、この考えは冒頭のような「高齢者の体をいたわるため」という理由に変化した。どちらにしても、「席を譲りましょう」という結論に変化は見られない。

「お年寄りに譲らされたことのある言葉だと思える。私がこの話を初めて聞いたのは小学校低学年の時。当時の私は、お年寄りは私たちがより体が弱かったり、不便があったりするから席を譲らなくてはならないのだと思った。しかし、「お年寄りは私たちの生活を築いてくれた先輩だから、それに感謝して席を譲るのです」と浅田次郎のエッセイ「絶対幸福主義」には書いてある。しかし、戦後に儒教的な教えが否定されるようになると、この考えは冒頭のような「高齢者の体をいたわるため」という理由に変化した。どちらにしても、「席を譲りましょう」という結論に変化は見られない。

「お年寄りに譲らされたことのある言葉だと思える。私がこの話を初めて聞いたのは小学校低学年の時。当時の私は、お年寄りは私たちがより体が弱かったり、不便があったりするから席を譲らなくてはならないのだと思った。しかし、「お年寄りは私たちの生活を築いてくれた先輩だから、それに感謝して席を譲るのです」と浅田次郎のエッセイ「絶対幸福主義」には書いてある。しかし、戦後に儒教的な教えが否定されるようになると、この考えは冒頭のような「高齢者の体をいたわるため」という理由に変化した。どちらにしても、「席を譲りましょう」という結論に変化は見られない。

過去に負けない合唱祭を

過去の合唱祭を振り返る

いよいよあと2日に迫った合唱祭。今年の合唱祭は感染対策との両立を図る新たな形式での開催となる。今号では、コロナ流行前の合唱祭がどのような形式で行われたのかを過去の錦城高校新聞やインタビューをもとに調査した。合唱祭についてより深く知るきっかけにしてほしい。

大迫力の全体合唱

例年の合唱祭では、1・2年生が合同で行う「全体合唱」が行われていた。しかし、全体練習を行うのは感染対策の観点から判断してリスクが高いため、今年には行わないことになったそう。



会場の心が1つに(錦城高校HPより)

先生も舞台上

全クラスの合唱が終わった後に毎年恒例で行われていたという「先生合唱」も今年も行われなかった。先生合唱は、先生たちによる合唱で、指揮、伴奏、合唱まで全て先生によって行われ、授業で見られない先生の個性が光る合唱に毎年大歓声が上がっていたそう。



笑顔でダンスする納富先生(映画研究部提供)

個性豊かなパフォーマンス

過去の合唱祭では合唱以外にも、様々なパフォーマンスを織り交ぜた個性豊かな発表があった。

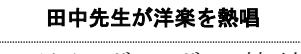


キラのあるダンスで盛り上げる

「世界観を合唱と寸劇で表現。会場は笑いの渦に包まれたそう。『サイレントマジック』のメンバーは、メンバー全員がサンングラスをかけて演奏。ビジュアル面で印象的なパフォーマンスも目立った。

小平高校と合同ライブ

2月4日(土)、ホールにて軽音楽部のライブが開催された。今回のライブは小平高校軽音楽部と合同で行われた。錦城のバンドと小平高校の1年生バンドがランダムにパフォーマンスを行った。中には錦城と小平高校の合同バンド「ニルバーナ」は田中耕作先生をボーカルに錦城や小平高校の先生、小平高校の生徒によって構成され、田中先生のシャウトを交えたボーカルに観客は圧倒されていた。最後は堀河健一先生をボーカルに据えた合同バンドによる演奏が行われ、熱狂のライブは幕を閉じた。



田中先生が洋楽を熱唱



合同ライブの感想を語る

「都立高校の中では、活発に活動していると思います」と話す。また、錦城の音の調整技術や設備の充実度に驚いたという。錦城のバンドについて「B、Zの松本孝弘さんが創設したという伝統にも名前負けしていないほど上手な演奏でした」と話した。

寒空の下たすきを繋ぐ

錦城高校A女子優勝

2月5日(日)に第43回こいだら市民駅伝大会が中央公民館前を出発点・中継点・終着点として行われた。錦城高校陸上部からは女子がA、B、Cの3チーム、男子はA、B、C、D(Cチームは欠場)の4チーム、錦城高校教職員からは2チームが出場した。結果は一般女子の部で錦城高校Aチームが優勝し、メンバー全員が区間賞を獲得。また、一



山中先生から田代先生へ

区間賞を獲得。また、一般男子の部では、錦城高校Aチームが5位という結果を収めた。練習時に気をつけたことについて女子Aチームに所属する池田美和さん(2M)は「きついときに声をかけあいながら4人で競り合いました」と振り返る。そして、今後に向けては「田代結菜さん(1E)は、今後はそれぞれの種目



結果を受けて笑みを浮かべる

に「戻り、きついと思いますが自己ベストをめざして、頑張りたいと思います」と意気込んだ。最後に吉川佳凛さん(2D)は錦城生に向けて「これからもベストを尽くせるように頑張っていくので応援よろしくお願いします」と話した。

冬のレジャーを満喫!

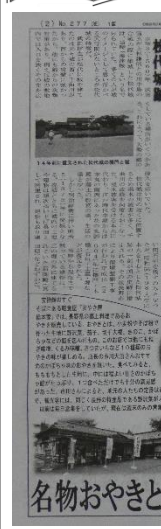
ワンダーフォーゲル部恒例の冬合宿を行いました。行き先は昨年と同じく、長野県の志賀高原です。部員数が大幅に増えた今年は、1・2日目は初級者と上級者の2班に分けて練習を行い、3日目は全員で一緒に滑走。顧問の川越崇先生のほか、小野寺昭彦先生、山田功司先生が参加し、その指導の下、1日目は自信のなかった人も3日目には急斜面を滑ることができるようになりました。夕食は、全員が爆食。白米を何杯もおかわりする人や、ケーキを3皿平らげた人までいました。いっぱい滑り、食べ、たくさん思い出ができました。(ワンゲル部員)



恒例の東館山頂でパチリ

信濃で感じる真田の魅力

再刊277号では、全国高等学校総合文化祭が開催された長野県を当時の新聞委員会取材の様子が記載されている。新聞委員会は、長野県長野市に位置する観光地「松代」を訪れ、街の様子や伝統について取り上げている。「松代」は関ヶ原の戦いや大坂の陣などで活躍した真田家ゆかりの地でもあり、この号では、真田家に深くかかわる建物や国の重要文化財についても触れ、地域を挙げて当時の建物や景観を守り続けている様子が紹介されている。また、長野県の郷土料理であるおやきのお店を訪れ、おやきの魅力を伝えるとともに過疎化や観光客の減少によって経営が苦しくなっているという都会近郊に暮らしている私たちには見えない地方の課題についても取り上げられていた。



紙面を通して長野の伝統を伝える

編集部員の声

私がこの記事を選んだ理由は二つある。一つは、個人的に真田家が好きで、皆さんにも紹介したいと思ったからだ。この記事が書かれた当時は『真田丸』という大河ドラマが放送された直後であり、真田家ゆかりの地である松代も大きな話題となっていた。二つ目はコロナの制限がない中、外部に取材に行っている記事に魅力を感じたからだ。新聞委員会としては一日でも早くコロナに制限されない取材をしたいと思っている。コロナの制限が緩和されたら今までよりもさらに面白く皆さんに思っていただけのような新聞を作っていきたいと思う。(蛋)

大会報告

- 陸上部
 - ▽1月6日(金) 新春駅伝競走大会
 - 女子駅伝の部
 - 女子Aチーム…太田(1年)・早川(1年)・池田(2年)・吉川(2年) 6位入賞
- ▽2月5日(日) 第43回こいだら市民駅伝大会
 - 一般男子の部
 - 錦城高校A 5位【大会新】
 - 錦城高校B 12位
 - 錦城高校D 14位
 - Teachers 1E 27位
 - Teachers Sr. 37位
 - 一般女子の部
 - 錦城高校A 1位
 - 錦城高校B 3位
 - 錦城高校C 4位
- 将棋部
 - ▽12月25日(日) 第33回関東大会
 - 個人戦男子の部 会長杯
 - 水谷祐太(2K) 優勝
- 男子バレーボール部
 - ▽12月24日(土) ウインターカップ
 - 第1位、第3位
- ソフトテニス部
 - ▽1月29日(日) 東京都女子シングルス大会
 - 兼ハイスクールジャパンカップ予選
 - 出場
- 剣道部
 - ▽1月15日(日) 東京都高等学校新人剣道大会
 - 第八支部予選
 - 稗田(1年)・小林(1年)・岩井(1年)
 - 初戦出場